

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理
【令和4年度実績】

環境部 環境政策課

令和6年2月

目次

第1章	横須賀市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画について	
1	計画の概要	1
2	施策の分類と一覧	1
3	計画の進行管理	2
第2章	関連施策の取組実績と評価	
1	重点施策	4
2	継続施策	7
3	検討施策	16
4	その他（災害廃棄物対策）	17
第3章	数値目標と対象年度実績の比較	18
第4章	総合評価	
1	関連施策の取組について	19
2	令和4年度ごみ処理実績値と数値目標の比較	20
【別添資料】		
1	ごみ処理実績の5か年推移	21
2	神奈川県一般廃棄物処理実績報告の定義に基づく生活系、事業系 ごみの内訳	23
3	県内19市の資源化率と原単位（1人1日排出量）	24
4	ごみ処理経費の推移	25
5	県内19市のごみ処理経費（令和3年度実績）	26

1 計画の概要

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画は、長期的視点に立った本市の一般廃棄物処理の基本方針となる計画です。

本計画では廃棄物の課題や処理について市民、事業者、市が「自分ごと」として捉え、互いに連携し、廃棄物の減量化、資源化、適正な処理を行い循環型社会の実現をめざしていきます。

◆計画期間

令和4年度（2022年度）～令和11年度（2029年度）

◆基本理念

「未来へつなぐ“循環型都市よこすか”の推進」

◆基本方針

- ・ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）に、リフューズを加え「3R+1」を基本方針とし、ごみを減らす取り組みを推進します。
- ・ SDGsを達成するための取組を推進します。

2 施策の分類と一覧

基本理念を実現するため、基本方針に沿って「重点施策」、「継続施策」、「検討施策」を実施していきます。

【重点施策】

食品ロス、プラスチックごみへの対応など時代に即した施策や事業系ごみに関する施策で「循環型都市よこすか」推進のため、計画期間中に特に重点的に推進する施策

【継続施策】

啓発や指導など、これからも継続して推進し充実させていく施策

【検討施策】

ごみの有料化など、これからも継続して検討していく施策

施策の一覧

施策の分類	具体的施策
1. 重点施策	①食品ロスに関する施策
	②プラスチックごみの削減、資源化の推進
	③事業系ごみに関する施策
2. 継続施策	①ごみの減量化、資源化、適正処理のための啓発
	②ごみの排出指導
	③処理手数料の適正化
	④分別区分の整理
	⑤高齢者等のごみ出し支援
	⑥いわゆる「ごみ屋敷」への対応
	⑦剪定枝（枝草）の資源化
	⑧海岸漂着ごみの円滑処理
	⑨ポイ捨て防止及び路上禁煙の徹底
	⑩不法投棄対策の強化
	⑪適正処理困難物および排出禁止物に関する指導
3. 検討施策	①家庭系剪定枝の資源化
	②家庭ごみの有料化
	③ごみ処理に関する新たな技術等の調査、検討

3 計画の進行管理

施策の取組や各年のごみ排出量等について、廃棄物減量等推進審議会に諮り、計画の評価を行います。

(1)関連施策の取組実績と評価(第2章)

各年度の施策の取組状況について、以下の3段階で評価しました。
実績値の増減に対してではなく、施策に関する取組の有無を判断基準とします。

A：予定通り実施した B：一部実施した C：実施しなかった

(2)数値目標と対象年度実績の比較(第3章)

ごみ排出量などの数値目標について、対象年度の実績値との比較を行います。
数値目標については、令和2年度実績を基に、ごみ処理基本計画の最終年度となる令和11年度のごみ排出量などを設定しています。

【数値目標設定の考え方】

①人口減少等によるごみの減少

- ・ 定日ごみ、粗大ごみの減少

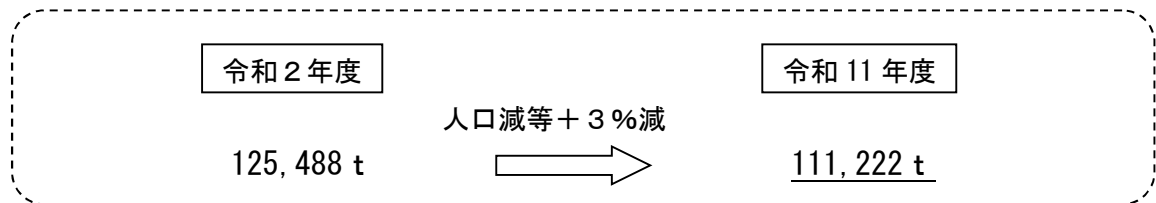
燃せるごみ、不燃ごみ、缶・びん・ペットボトル、容器包装プラスチック（プラスチック資源）の定日収集ごみと粗大ごみが、人口減により毎年 0.8%ずつ減少すると想定しています。

- ・ 集団資源回収の減少

毎年 4%減少すると想定しています。

②施策等によるごみの減少

- ・ ①の推計量から 3%削減することを目標として設定しています。



第2章 関連施策の取組実績と評価

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に記載している施策に関する取組の実績をまとめ、その実績をもとに、各年の施策の取組状況を評価します。

1. 重点施策

(1) 食品ロスに関する施策（環境政策課、廃棄物対策課）								
評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
	A							

【取組実績】

- ・家庭から出るごみの食品ロス組成調査を4回実施しました。
- ・ごみトークや子どもごみ教室などで、食品ロス削減について啓発しました。
- ・市内の事業者を対象に、食品ロス削減についてのヒアリングを行いました。
- ・他都市の取組の情報収集を行いました。

実績の推移	【参考】 R3	R4	R5	R6	R7
燃せるごみにおける食品ロスの割合	12.8%	5.8%			
厨芥類における食品ロスの割合	35.9%	29.6%			
推定される食品ロス発生量	8,120 t	3,551 t			

食品ロスとは？

まだ食べられるのに捨てられている食べ物を指します。
(直接廃棄、食べ残し、過剰除去など)



食品ロス調査の様子

(2) プラスチックごみの削減、資源化の推進 (環境政策課)								
評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
	A							

【取組実績】

- ・令和4年11月1日から、直営収集区域の一部で容器包装プラスチックと製品プラスチックを一括収集する実証事業を実施しました。
- ・環境省の「令和4年度プラスチックの資源循環に関する先進的モデル形成支援事業」に採択され、一括収集したプラスチックの組成調査や住民アンケートを実施しました。
- ・プラスチック資源循環促進法第33条に基づく再商品化計画を作成し、令和4年12月19日付で環境大臣・経済産業大臣の認定を受けました。
- ・プラスチック資源循環促進法第33条に基づく再商品化計画の大臣認定を受けた仙台市を訪問し、情報収集を行いました。

プラスチック一括収集の実証事業の概要

i) 対象地区・世帯数・収集量

対象地区	世帯数	収集日数	収集量	1日平均
湘南山手	2,941	22日	61,920 kg	2,815 kg
岩戸	2,738	22日	44,310 kg	2,014 kg
合計	5,679	44日	106,230 kg	2,414 kg

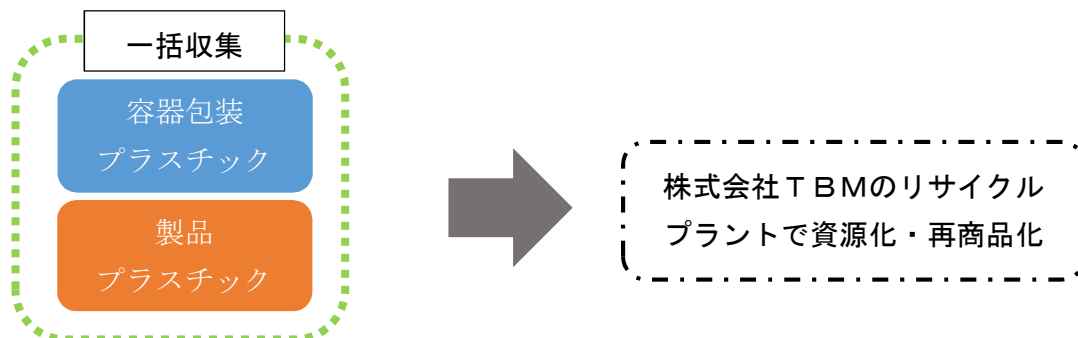
ii) 処理量

分類	処理量
資源化(ペレット化)	44,146 kg
残さ、汚泥等	62,084 kg
合計	106,230 kg

※再資源化率(ペレット化した割合) 41.5%

iii) 実施内容

- ・容器包装プラスチックと製品プラスチックの一括収集と資源化・再商品化
- ・対象世帯へのアンケート
- ・収集したプラスチックの組成調査 など



(3) 事業系ごみに関する施策 (廃棄物対策課)								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・事業者向けの食品ロス削減啓発ポスターを本庁掲示板9か所に掲示しました。
- ・廃棄物の減量化・資源化を推進するため、事業系一般廃棄物多量排出事業者から事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績報告書を受理し、集計結果をホームページで公表しました。
- ・市内の事業者を対象に、食品ロス削減についてのヒアリングを行いました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績報告書の受理	220件	218件			

2. 継続施策

(1) ごみの減量化、資源化、適正処理のための啓発（環境政策課、廃棄物対策課、環境施設課（リサイクルプラザ）、広域処理センター）

評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
	A							

【取組実績】

① 児童や生徒に対するごみ教室の開催や啓発冊子の発行

- ・子どもごみ教室を54回開催し、2,598人が参加しました。
- ・児童用ごみ減量啓発冊子を3,700部作製しました。

実績の推移	【参考】 R3	R4	R5	R6	R7
子どもごみ教室	47回 1,393人	54回 2,598人			
啓発冊子	4,000部	3,700部			

② ごみ分別パンフレットや収集カレンダーの発行

- ・ごみ分別パンフレット13,000部、**ごみ分別パンフレット（英語版）**2,000部作製しました。
- ・**分別収集カレンダー**を220,000部作製しました。

実績の推移	【参考】 R3	R4	R5	R6	R7
分別パンフレット	25,000部	13,000部			
分別パンフレット （英語版）	5,000部	2,000部			
分別収集カレンダー	220,000部	220,000部			



子どもごみ教室におけるパッカー車見学の様子



ごみ分別パンフレット

③ごみ分別アプリの配信

- ・スマートフォン用ごみ分別アプリの令和5年3月末時点のダウンロード数は、51,322件でした。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
ダウンロード数	45,908件	51,322件			

横須賀市ごみ分別アプリ「スカ☆ごみ」

分別ルールや各地域の収集曜日、持込施設の場所といったごみ関連情報を確認できるほか、分別の検索ができるアプリです。

④広報誌やホームページによる周知啓発

- ・広報よこすかに9回、12件を掲載しました。
- ・HP「ごみデータ in よこすか」を毎月更新し、ごみ量の推移を周知しました。
- ・ポスター及び標語を募集しました。(ポスター：835点、標語355点)
- ・立て看板、ポスター、懸垂幕、横断幕等による啓発を実施しました(6月、10月各1か月間)

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
広報よこすか	8回 12件	9回 12件			
ポスター	951点	835点			
標語	383点	355点			

⑤ごみトーク・ごみ問題学習会の開催

- ・ごみトークを7回実施し、255人が参加しました。
- ・ごみ問題学習会を4回実施し、83人が参加しました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
ごみトーク	2回 38人	7回 255人			
ごみ問題学習会	0回 0人	4回 83人			

※令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ごみ問題学習会の実施を見合わせました。

⑥アイクルフェアの開催

- ・アイクルフェアを1回開催し、1,400人が来場しました。
- ・集団資源回収で回収した古本・古着について、アイクルフェアで古本・古着市を開催しました。
- ・粗大ごみで回収した家具の一部を補修して展示し、アイクルフェアで58個提供しました。
- ・株式会社エコランドと連携し、アイクルフェアにてリユースできるおもちゃ等を回収するボックスを設置しました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
アイクルフェア ※人数は延べ数	0回 0人	1回 1,400人			
再生家具提供個数	0個	58個			

※令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、アイクルフェアの開催を中止しました。

⑦市民共同による啓発活動

- ・6月をクリーンよこすか推進月間とし、美化活動に延べ69,215人が参加しました。
- ・11月にクリーンよこすか市民のつどいを実施し、377人が参加しました。
- ・クリーンよこすか市民のつどいの開催にあわせ、NPO法人海さくらと連携し、ごみ拾いイベント「よこすかきれいにしまッスカ!!」を開催しました。
- ・6月に5日間、10月に5日間、ポイ捨て防止街頭キャンペーンを実施し、117人が参加しました。
- ・ごみダイエット推進員研修会及び施設見学会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を見合わせました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
クリーンよこすか 推進月間における 美化活動の実施 ※人数は延べ数	61,834人	69,215人			
クリーンよこすか 市民のつどい	0人	377人			
ポイ捨て防止街頭 キャンペーン	104人	177人			

※令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、クリーンよこすか市民のつどいを中止しました。



アイクルフェアにて展示した再生家具



ポイ捨て防止街頭キャンペーンの様子

⑧施設見学による分別や処理の周知

- ・アイクルで 69 団体、1,509 人（うち、市内の小中学校・保育園 13 校、645 人）の見学者に対して施設見学を行いました。
- ・横須賀ごみ処理施設の見学は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
アイクル施設見学	23 団体 222 人	69 団体 1,509 人			
うち市内の小中学校・保育園の見学	1 校 48 人	13 校 645 人			

※令和 3 年度は、小学生のリサイクル学習事業を中止しました。

⑨生ごみ等減量化処理機器を購入する市民に対する補助制度の推進

- ・非電動型生ごみ処理器の購入を推進するため、補助率を購入額の 2 分の 1 から 4 分の 3（上限 3 万円）に変更しました。
- ・電動型生ごみ処理機 105 基、EM 処理容器 7 基、コンポスト容器 39 基、小枝粉碎機 16 基の購入費を補助しました（非電動型生ごみ処理機は購入額の 4 分の 3、電動型生ごみ処理機・小枝粉碎機は購入額の 2 分の 1、いずれも限度額 3 万円）。
- ・広報よこすかへの掲載や、クリーンよこすか市民のつどい、アイクルフェアなどのイベントに出展するなど、生ごみ等減量化処理機器の普及に努めました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
電動型生ごみ処理機	101 基	105 基			
EM 処理容器	7 基	7 基			
コンポスト容器	36 基	39 基			
小枝粉碎機	13 基	16 基			



クリーンよこすか市民のつどいにて展示した
生ごみ等減量化処理機器

補助金制度の概要

i) 補助対象者

横須賀市在住で、家庭から出る生ごみを自家処理するために購入する方

ii) 補助対象

処理機器本体及び初回稼働に最低限必要な基材やEMぼかし等（送料や消費税も含む）

iii) 補助額

非電動型生ごみ処理器	購入額の4分の3（上限3万円）
電動型生ごみ処理機	購入額の2分の1（上限3万円）
小枝粉碎機	購入額の2分の1（上限3万円）

（2）ごみの排出指導（廃棄物対策課）

評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
A								

【取組実績】

- ・市民等への分別排出指導を249件、ごみ集積所の新設・移設等を209件実施しました。
- ・ごみ収納ボックスを115台・カラス除けネットを2,199枚配布しました。

実績の推移	【参考】 R3	R4	R5	R6	R7
市民等への分別排出指導	344件	249件			
ごみ集積所の新設・移設等	231件	209件			
ごみ収納ボックス	323台	115台			
カラス除けネット	2,353枚	2,199枚			

（3）処理手数料の適正化（環境政策課）

評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
A								

【取組実績】

- ・他都市の廃棄物処理手数料の状況を調査しました。
- ・処理経費と近隣他都市の手数料を踏まえ、スプリングマットレスの廃棄物処理手数料を改定しました（収集手数料は改定前の2,300円に2,000円を追加し4,300円。持込手数料は改定前の10kgまでごとに150円に、1個あたり2,000円の基本料金を加算）。

改定前と改定後の比較	～R4. 9. 30	R4. 10. 1～
スプリングマットレスの収集手数料	2,300円/個	4,300円/個
スプリングマットレスの持込手数料	10kgまでごとに150円	10kgまでごとに150円及びスプリングマットレス1個につき2,000円を合算した額

（４）分別区分の整理（環境政策課）								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・令和 5 年 10 月からの分別変更に向けて、粗大ごみの定義見直しや一括収集したプラスチックの分部名商の検討に関する打ち合わせを行いました。
- ・一部地域にて容器包装プラスチックと製品プラスチックを一括収集する実証事業を実施しました。

（５）高齢者等のごみ出し支援（廃棄物対策課）								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・高齢者等支援収集を 56 件実施しました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
高齢者等 支援収集	43 件 実働 154 日	56 件 実働 180 日			

高齢者等ごみ出し支援収集の制度の概要

i) 対象世帯

下記のすべての条件を満たす世帯及びその他、市長が特に必要と認める世帯が対象となります。

- ・65 歳以上、要介護 2 以上
- ・自らごみ集積所にごみを出すことが困難で、親族・近隣住民・地域ボランティア等、ホームヘルパーによるごみ出し支援が困難な世帯
- ・住民税非課税世帯

ii) 現地確認と収集開始

現地確認ののち、久里浜収集事務所職員が週 1 回、「燃せるごみ」「缶・びん・ペットボトル」「プラスチック資源」「不燃ごみ」を戸別収集します。

(6) いわゆる「ごみ屋敷」への対応 (廃棄物対策課)								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・ごみ屋敷に関する通報や相談等を関係課で受け付け、現地確認や排出支援等を実施しました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
排出支援 実施回数	8件	8件			

(7) 剪定枝(枝草)の資源化 (広域処理センター)								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・民間の資源化処理施設に持ち込みできない枝草等を、積替保管施設で受け入れ、2,143 トン資源化処理委託を行いました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
枝草等の資源 化委託量	2,105 t	2,143 t			

(8) 海岸漂着ごみの円滑処理 (環境政策課、廃棄物対策課)								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・(公財)かながわ海岸美化財団により海浜地清掃を実施し、処理量は149,160kgでした。
- ・海洋プラスチックごみ対策アクション宣言賛同事業者と連携し、海岸等の清掃活動やその支援等を実施しました。

〈賛同事業者と連携した取組の例〉

- ①清掃活動を行う賛同事業者へトングやごみ袋等の提供を行いました。
 - ②賛同事業者が立ち上げた清掃活動や回収したごみの分析を行うプロジェクトの後援を行いました。
 - ③小学校が「総合的な学習の時間」の中で生徒に対して授業を行いました。また、生徒が啓発ポスターを作製した際には、市関連施設への掲示の支援を行いました。
- ・横須賀市立横須賀総合高等学校の美術科及び美術部の生徒に協力いただき、海洋プラスチックごみ問題に関する啓発ポスターを作製しました。作製したポスターは、市関連施設や市内賛同事業

者の事務室等に掲示されています。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
(公財) かながわ 海岸美化財団 処理量	127, 359kg	149, 160kg			
海洋プラスチック ごみ対策アクション 宣言賛同事業者数	139 団体	231 団体			

※海洋プラスチックごみ対策アクション宣言は、令和3年度は都市戦略課で所管していました。



作製した啓発ポスター

(イラストは横須賀市立横須賀総合高等学校の生徒の作品)

(9) ポイ捨て防止及び路上禁煙の徹底 (環境政策課)								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・ごみゼロ啓発キャンペーンを実施しました (5月)。
- ・年末年始キャンペーンを実施しました (12月)。
- ・巡回指導を264回、喫煙中止指導を11件実施しました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
巡回指導	258 回	264 回			
喫煙中止指導	208 件	11 件			

※新型コロナウイルス感染防止のため4月～2月までは車両で巡回を実施、直接の指導はしていません。

ごみゼロ啓発キャンペーン

ごみの落ちていない清潔で安全なまちを目指すため「ごみゼロの日」(5月30日)に、ポイ捨てごみの回収やポイ捨て防止の啓発等を行う取組

(10) 不法投棄対策の強化 (廃棄物対策課、久里浜収集事務所)								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・パネル展を10か所で開催、警察との合同パトロールを12回実施、移動式監視カメラの活用をしました。
- ・巡回調査等を延べ17,786か所実施し、処理量は30.69トンでした。
- ・不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを3日間実施しました。

実績の推移	【参考】 R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
パネル展	10か所	10か所			
警察との合同パトロール	7回	12回			
巡回調査等	延べ19,492 か所 30.26トン	延べ17,786 か所 30.69トン			
夜間監視パトロール	5日間	3日間			
不法投棄多発地帯への環境ポスター掲出	10か所	9か所			



不法投棄防止のパネル展

(11) 適正処理困難物および排出禁止物に関する指導 (環境政策課、廃棄物対策課、広域処理センター、久里浜収集事務所)								
評価	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度
	A							

【取組実績】

- ・各施設の実態に沿って、受け入れる一般廃棄物の追加、削除品目検討等、受入内規を見直しました。
- ・市民からの問い合わせや持込み時に適正処理困難物・排出禁止物の指導を行いました。

3.検討施策

(1) 家庭系剪定枝の資源化（環境政策課）

評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
A								

【取組実績】

- ・現段階で導入の予定はありませんが、県内を中心に他自治体の実施状況や動向等の情報収集を行いました。

(2) 家庭ごみの有料化（環境政策課）

評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
A								

【取組実績】

- ・全国自治体の有料化導入状況の調査、県内で導入を検討している自治体の情報収集を行いました。横須賀市では当面導入の予定はありませんが、将来的な検討の必要性を考慮して引き続き調査を行いました。

(3) ごみ処理に関する新たな技術等の調査、検討（環境政策課）

評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
A								

【取組実績】

- ・株式会社エコランドと連携し、アイクルフェアにてリユースできるおもちゃ等を回収するリユース施策を試験的に実施しました。
- ・さらなるリユースを推進するため、リユース策の検討をしました。



アイクルフェアにて試験的に設置したおもちゃリユースの回収ボックス

4.その他

(I) 災害廃棄物に対する取組 (環境政策課)

評価	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
	A							

【取組実績】

- ・環境部職員による仮置場設営・運営訓練と、災害廃棄物の協定締結団体や廃棄物関連団体との意見交換会を実施しました。

仮置場設営・運営訓練／意見交換会の概要

i) 日時

令和5年2月9日(木) 13時30分～16時15分

ii) 場所

夏島グラウンド(実地訓練)、リサイクルプラザ(意見交換会)

iii) 参加者

約80名(環境部職員、危機管理課職員、災害廃棄物協定団体、廃棄物関係団体、廃棄物減量等推進審議会委員、神奈川県職員)

iv) 実地訓練の内容

- ①環境部職員による仮置場の設置
- ②受付・誘導・市民役に分かれ、搬入のロールプレイング

v) 意見交換会の議題

- ①実地訓練を踏まえて仮置場の設置や運営に関する意見やアドバイス
- ②発災時の支援内容や協定に基づく各団体の役割について
- ③その他(これまでの支援経験の共有など)

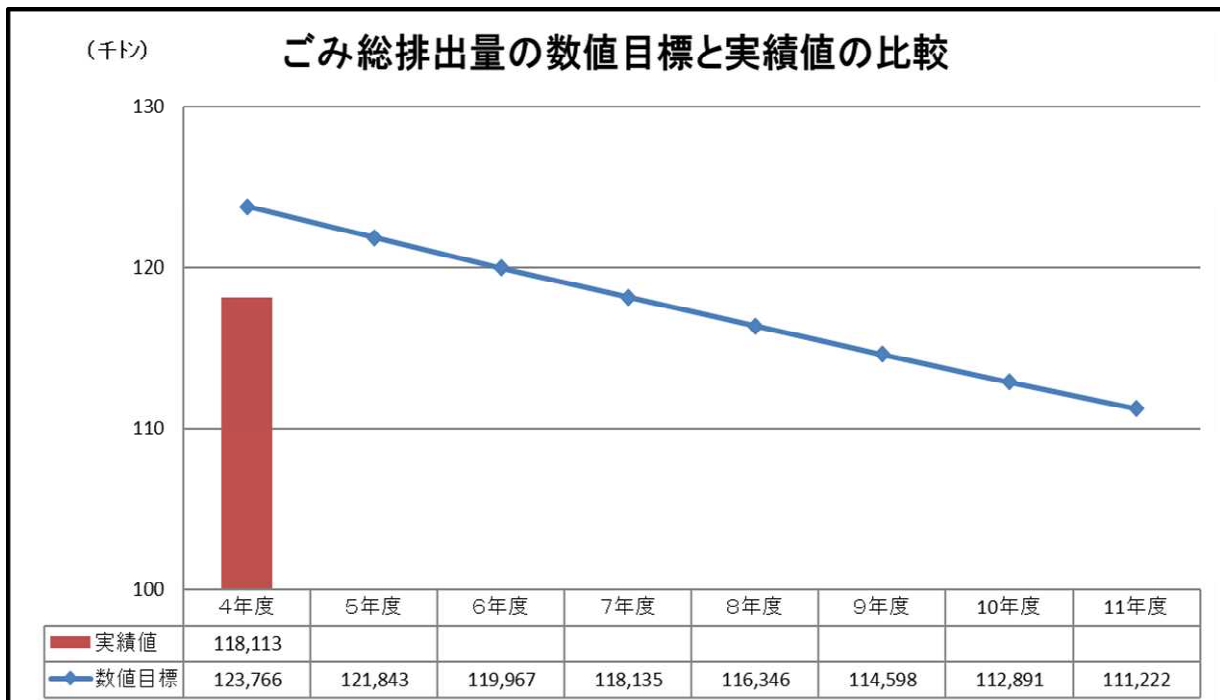


仮置場訓練の様子

第3章 数値目標と対象年度実績の比較

令和2年度のごみ処理実績を基に設定した数値目標と対象年度の実績値の比較を行います。

項目		単 位	令和2年度 【基準年度】	令和3年度 【参考】	令和4年度 【対象年度】	令和11年度 【目標年度】	数値目標 との比較
排 出 量	総排出量	t/年	125,488	121,696	118,113	111,222	6,891
	ごみ量	t/年	106,141	103,515	101,217	97,561	3,656
	集団資源回収量	t/年	19,347	18,181	16,896	13,661	3,235
	1人1日総排出量 (集団回収を含む)	g/人・日	864	846	831	810	21
資源化量		t/年	42,056	40,373	38,165	37,421	744
資源化率		%	33.5%	33.2%	32.3%	33.6%	△1.3%



I 関連施策の取組について

(1)重点施策

プラスチックの資源化を推進するため、容器包装プラスチックと製品プラスチックの一括収集及び再資源化の実証事業を、環境省による支援事業と併せて実施しました。また、令和4年12月には、プラスチック資源循環促進法による再商品化計画を策定し、環境大臣・経済産業大臣の認定を受けました。

令和5年度は、プラスチックの実証事業等の結果を踏まえ、プラスチックの一括収集を全市域で実施しています。

(2)継続施策

新型コロナウイルス感染症の影響により近年中止していたアイクルフェアやクリーンよこすかのイベント等を実施することができ、市民の方々に「3R+1」をより身近な場所で意識してもらうことができました。

他にもスプリングマットレスの処理手数料の改定や、非電動型生ごみ処理器の補助率の改定なども実施し、ごみの排出抑制、適正処理を推進することができました。

今後ともごみの排出抑制、適正処理を推進するため、啓発や指導を継続していきます。

(3)検討施策

リユースについて、令和5年度以降の実施に向けた検討や実証事業を実施しました。

おもちゃリユースについては、令和4年度のアイクルフェアでの効果を踏まえ、令和5年10月から本格実施しています。

(4)その他

災害廃棄物に対する取組として、仮置場設営・運営訓練と意見交換会を実施しました。今後は、町内会・自治会や市民の方々に対して、災害廃棄物や仮置場に関する周知・啓発を実施していきます。

2 令和4年度ごみ処理実績値と数値目標の比較

(1)ごみ総排出量の比較

令和4年度のごみ総排出量は、118,113 トンであり、**令和3年度実績**と比較して3,583 トン(2.9%)、基値年度(令和2年度)実績と比較して7,375 トン(5.9%)減少しており、令和11年度数値目標に対する達成率は51.7%でした。

また、令和4年度の数値目標123,766 トンと比較すると、5,653 トン下回っており、令和11年度には数値目標を達成するペースでごみ総排出量が減少しています。

(2)ごみ量と集団資源回収量それぞれの比較

ごみ量と集団資源回収量を分けて比較すると、ごみ量については前年度比で2,298 トン(2.2%)、集団資源回収量については前年度比で1,285 トン(7.1%)減少しており、ごみ総排出量に対して、集団資源回収量の減少割合が大きいと言えます。集団資源回収量の減少が大きかった要因としては、電子書籍やニュースアプリの普及による新聞・雑誌の利用者・購読数の減少などが考えられます。

また、目標値と比較すると、ごみ量は3,656 トン、集団資源回収量は3,235 トンと、前年度からの減少割合を踏まえると、いずれも数値目標を下回るペースで減少しているといえます。

(3)資源化量と資源化率の比較

資源化量については、容器包装プラスチックや資源化量全体の約3分の1を占める集団資源回収の減少により、前年度比で2,208 トン(5.5%)と、大幅に減少しています。また、それに伴い、資源化率も令和4年度は32.3%と、前年度から9%減少しており、令和11年度の数値目標の33.6%より1.3%低い結果となりました。

別添資料1 ごみ処理実績の5か年推移

1 排出量

(1) 種類別排出量

単位：トン

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
燃せるごみ		87,213	88,862	84,395	82,333	81,178	△ 1,155	△ 1.4%
不燃ごみ		5,034	4,449	1,292	1,028	921	△ 107	△ 10.4%
資源ごみ		14,270	14,053	16,035	15,565	14,806	△ 759	△ 4.9%
	缶・びん・ペットボトル	6,311	6,171	6,304	6,176	5,870	△ 306	△ 5.0%
	容器包装プラスチック	7,835	7,747	7,268	7,010	6,337	△ 673	△ 9.6%
	(仮称)資源プラスチック	-	-	-	-	106	106	100.0%
	乾電池等	115	122	157	150	141	△ 9	△ 6.0%
	枝草	-	-	2,292	2,216	2,335	119	5.4%
	その他	9	13	14	13	17	4	30.8%
粗大ごみ		3,140	3,829	4,419	4,589	4,312	△ 277	△ 6.0%
小計		109,657	111,193	106,141	103,515	101,217	△ 2,298	△ 2.2%
集団資源回収		20,881	20,106	19,347	18,181	16,896	△ 1,285	△ 7.1%
合計		130,538	131,299	125,488	121,696	118,113	△ 3,583	△ 2.9%

注) 枝草は、令和元年度まで燃せるごみ、令和2年度から資源ごみとして処理をしている。

(2) 収集等形態別排出量

単位：トン

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
定日収集		78,663	79,641	80,120	77,122	74,414	△ 2,708	△ 3.5%
	燃せるごみ	59,769	61,557	65,305	62,948	61,221	△ 1,727	△ 2.7%
	不燃ごみ	4,755	4,176	1,246	993	886	△ 107	△ 10.8%
	缶・びん・ペットボトル	6,305	6,165	6,302	6,172	5,866	△ 306	△ 5.0%
	容器包装プラスチック	7,834	7,743	7,267	7,009	6,335	△ 674	△ 9.6%
	(仮称)資源プラスチック	-	-	-	-	106	106	100.0%
許可収集		20,611	20,192	18,007	18,428	19,031	603	3.3%
乾電池等収集		115	122	157	150	141	△ 9	△ 6.0%
粗大ごみ等収集		976	1,124	1,255	1,102	978	△ 124	△ 11.3%
臨時収集		816	904	616	624	658	34	5.4%
直接搬入		8,476	9,210	5,986	6,089	5,995	△ 94	△ 1.5%
小計		109,657	111,193	106,141	103,515	101,217	△ 2,298	△ 2.2%
集団資源回収		20,881	20,106	19,347	18,181	16,896	△ 1,285	△ 7.1%
合計		130,538	131,299	125,488	121,696	118,113	△ 3,583	△ 2.9%

(3) 他市受入れ量

単位：トン

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
三浦市 燃せるごみ		7,668	8,149	8,705	8,751	8,425	△ 326	△ 3.7%
三浦市 不燃ごみ		-	40	202	184	169	△ 15	△ 8.2%
三浦市 粗大ごみ		-	79	379	346	325	△ 21	△ 6.1%
三浦市 容器包装プラスチック		-	-	-	117	-	△ 117	△ 100.0%
三浦市 合計		7,668	8,268	9,286	9,398	8,919	△ 479	△ 5.1%
千葉県 災害ごみ		-	115	-	-	-	-	-

2 処分量（処理施設搬入量）

単位：トン

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
焼却施設		98,173	101,055	98,622	95,833	94,042	△ 1,791	△ 1.9%
不燃ごみ等選別施設(不燃)		5,034	4,489	1,497	1,218	1,096	△ 122	△ 10.0%
不燃ごみ等選別施設(粗大)		3,472	4,190	4,775	4,916	4,620	△ 296	△ 6.0%
資源化施設		18,786	18,484	18,484	18,003	16,755	△ 1,248	△ 6.9%
積替保管施設(枝草等)		-	176	2,351	2,269	2,381	112	4.9%
直接資源化		15,975	15,282	13,920	13,382	12,368	△ 1,014	△ 7.6%
合計		141,440	143,676	139,649	135,621	131,262	△ 4,359	△ 3.2%

注) 資源化施設処分量には、リサイクルプラザに搬入される集団資源回収（段ボール、紙パック、その他の紙）を含む。

3 資源化量

単位：トン

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
リサイクルプラザ		17,785	17,785	18,092	17,824	16,615	△ 1,209	△6.8%
プラ資源化(民間)		-	-	-	-	103	103	100.0%
集団資源回収		15,127	15,127	13,720	13,196	12,088	△ 1,108	△8.4%
焼却灰スラグ化ほか		7,517	7,517	7,843	7,022	6,921	△ 101	△1.4%
粗大金属ほか		843	843	1,130	1,078	1,010	△ 68	△6.3%
枝草		-	-	2,081	2,105	2,143	38	1.8%
合計		41,484	41,272	42,866	41,225	38,880	△ 2,345	△5.7%

注) 集団資源回収のうち段ボール、紙パック、その他の紙はプラザの資源化を含む。

4 資源化率

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
資源化率		31.8%	31.4%	33.5%	33.2%	32.3%	△ 0.9%	-
県内平均資源化率		24.3%	24.1%	24.9%	24.7%		-	-
全国平均資源化率		19.9%	19.6%	20.0%	19.9%		-	-

注) 資源化率(%) = 【資源化量】 ÷ 【排出量合計(集団資源回収量を含む)】 × 100

5 1人1日排出量

単位：グラム

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
集団回収を除く		740	758	731	719	712	△ 7	△ 1.0%
集団回収を含む		881	895	864	846	831	△ 15	△ 1.8%

【参考】

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人口(人)		406,003	401,977	397,846	394,226	389,241
世帯数(世帯)		191,542	191,703	191,827	192,471	192,271

注) 人口及び世帯数は10月1日現在の住民基本台帳による。

別添資料2

神奈川県一般廃棄物処理実績報告の定義に基づく生活系、事業系ごみの内訳

1 生活系ごみについて

(1) 排出量

単位：トン

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
可燃ごみ		61,120	59,792	61,611	62,993	61,254	△ 1,739	△ 2.8%
不燃ごみ		4,855	4,757	4,176	993	887	△ 106	△ 10.7%
資源ごみ		14,396	14,280	14,063	13,367	12,482	△ 885	△ 6.6%
粗大ごみ		2,933	3,085	3,745	4,537	4,256	△ 281	△ 6.2%
小計		83,304	81,914	83,595	81,890	78,879	△ 3,011	△ 3.7%
集団回収量		21,631	20,467	19,682	17,885	16,621	△ 1,264	△ 7.1%
合計		104,935	102,381	103,277	99,775	95,500	△ 4,275	△ 4.3%

注) 概ね、定日収集、粗大ごみ(収集・直接搬入)、乾電池等収集、集団資源回収の合計。

(2) 1人1日排出量

単位：グラム

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
集団回収を含む		691	704	712	693	672	△ 21	△ 3.1%

2 事業系ごみについて

(1) 排出量

単位：トン

区分	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
可燃ごみ		27,811	27,644	19,736	19,602	20,168	566	2.9%
不燃ごみ		277	273	46	35	34	△ 1	△ 2.9%
資源ごみ		14	21	2,306	2,232	2,355	123	5.5%
粗大ごみ		55	84	49	52	56	4	7.7%
合計		28,157	28,022	22,137	21,921	22,613	692	3.2%

注1) 概ね、許可収集、直接搬入(燃せるごみ・不燃ごみ・資源ごみ)の合計。

直接搬入分は、集計の都合上、一部市民からの持ち込み分を含む。

注2) 枝草は、令和元年度まで燃せるごみ、令和2年度から資源ごみとして処理をしている。

別添資料3 県内19市の資源化率と原単位(1人1日排出量)

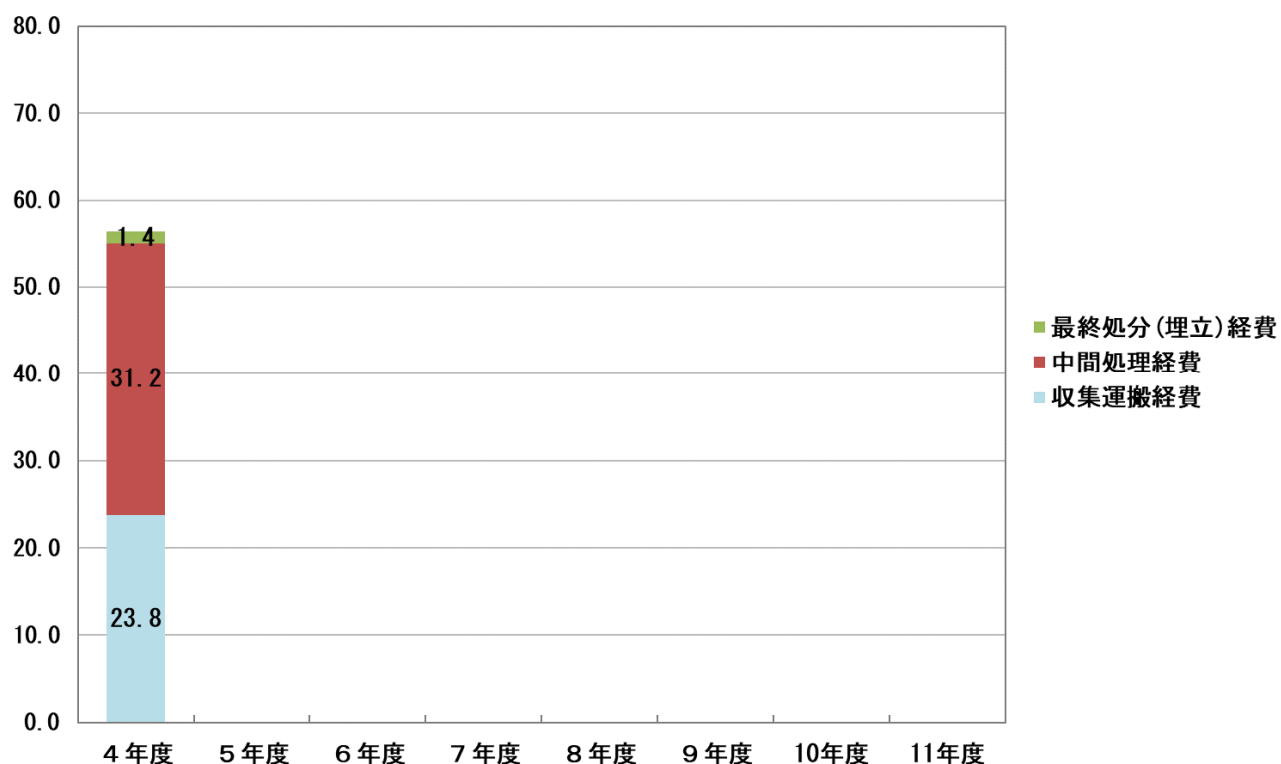
『神奈川県一般廃棄物処理事業の概要』を基に作成

令和2年度 (2020年度)			令和3年度 (2021年度)			
資源化率	原単位	集団回収を含む原単位	資源化率	原単位	集団回収を含む原単位	
1. 鎌倉 53.2%	1. 藤沢 698g	1. 座間 721g	1. 鎌倉 52.8%	1. 藤沢 682g	1. 座間 694g	
2. 逗子 48.1%	2. 逗子 701g	2. 海老名 735g	2. 逗子 46.6%	2. 逗子 686g	2. 海老名 730g	
3. 海老名 36.1%	3. 座間 712g	3. 大和 785g	3. 三浦 34.9%	3. 座間 689g	3. 大和 764g	
4. 三浦 34.8%	4. 横浜 715g	4. 茅ヶ崎 793g	4. 海老名 34.4%	4. 横浜 703g	4. 綾瀬 778g	
5. 横須賀 33.8%	5. 川崎 734g	5. 綾瀬 793g	5. 横須賀 33.3%	5. 川崎 719g	5. 川崎 783g	
6. 座間 32.0%	6. 伊勢原 734g	6. 川崎 800g	6. 座間 32.8%	6. 海老名 730g	6. 茅ヶ崎 804g	
7. 藤沢 30.9%	7. 海老名 735g	7. 伊勢原 812g	7. 藤沢 30.1%	7. 伊勢原 731g	7. 伊勢原 804g	
8. 綾瀬 30.7%	8. 横須賀 754g	8. 横浜 823g	8. 秦野 30.1%	8. 横須賀 739g	8. 横浜 807g	
9. 秦野 30.3%	9. 大和 785g	9. 秦野 827g	9. 綾瀬 29.5%	9. 大和 764g	9. 秦野 808g	
10. 大和 26.8%	10. 茅ヶ崎 793g	10. 藤沢 836g	10. 大和 26.0%	10. 綾瀬 778g	10. 藤沢 812g	
11. 平塚 26.4%	11. 綾瀬 793g	11. 平塚 850g	11. 平塚 25.5%	11. 秦野 802g	11. 平塚 831g	
12. 厚木 25.5%	12. 秦野 821g	12. 逗子 851g	12. 厚木 24.9%	12. 茅ヶ崎 804g	12. 逗子 832g	
13. 南足柄 24.5%	13. 平塚 850g	13. 相模原 865g	13. 伊勢原 24.3%	13. 相模原 826g	13. 相模原 837g	
14. 横浜 23.5%	14. 相模原 852g	14. 厚木 867g	14. 南足柄 24.3%	14. 平塚 831g	14. 厚木 842g	
15. 茅ヶ崎 22.7%	15. 厚木 867g	15. 横須賀 886g	15. 茅ヶ崎 23.8%	15. 厚木 842g	15. 横須賀 867g	
16. 伊勢原 22.2%	16. 南足柄 897g	16. 南足柄 897g	16. 横浜 23.2%	16. 南足柄 867g	16. 南足柄 867g	
17. 小田原 21.8%	17. 鎌倉 959g	17. 鎌倉 959g	17. 小田原 22.7%	17. 鎌倉 929g	17. 鎌倉 929g	
18. 相模原 20.4%	18. 三浦 961g	18. 小田原 970g	18. 相模原 20.5%	18. 小田原 945g	18. 小田原 945g	
19. 川崎 19.1%	19. 小田原 970g	19. 三浦 976g	19. 川崎 19.2%	19. 三浦市 971g	19. 三浦 985g	
19市平均	24.9%	757g	830g	24.6%	742g	812g
県内平均	24.9%	765g	836g	24.7%	750g	818g
全国数値	20.0%	865g	901g	19.9%	855g	890g

注) 神奈川県一般廃棄物処理実績報告の原単位は、「推計人口」を用いているため、本市のごみ処理実績の1人1日排出量(9ページ)と一致しない。

別添資料4 ごみ処理経費の推移

(億円/年)



【各経費の主な内訳】

- ・ 収集運搬経費…人件費（収集担当職員、一般職員※）、車両購入費、ごみ収集直営事業、ごみ収集委託事業、自動車管理事業 等
- ・ 中間処理経費…人件費（工場操作担当職員等、一般職員※）、リサイクルプラザ再資源化事業、南処理工場運営事業 等
- ・ 最終処分経費…人件費（一般職員※）、ごみ最終処分事業、長坂埋立地浄化センター管理事業 等

※一般職員の人件費は、収集運搬・中間処理・最終処分の各事業費の規模で按分して配分している。

別添資料5 県内19市のごみ処理経費(令和3年度実績)

『神奈川県一般廃棄物処理事業の概要』を基に作成

総処理経費

順位	市区町村名	1ト当たり (円)
1	横浜市	31,364
2	綾瀬市	31,817
3	平塚市	32,738
4	小田原市	35,312
5	相模原市	38,308
6	秦野市	39,868
7	海老名市	40,268
8	座間市	41,413
9	南足柄市	41,502
10	茅ヶ崎市	42,364
11	伊勢原市	43,383
12	川崎市	44,929
13	厚木市	49,754
14	三浦市	50,650
15	横須賀市	52,115
16	藤沢市	57,950
17	鎌倉市	58,627
18	逗子市	71,231
19	大和市	71,594
19市合計(1ト当たり)		40,106

収集経費

順位	市区町村名	1ト当たり (円)
1	小田原市	18,944
2	相模原市	22,007
3	秦野市	22,131
4	南足柄市	22,295
5	逗子市	23,289
6	茅ヶ崎市	25,017
7	平塚市	25,509
8	綾瀬市	25,517
9	伊勢原市	26,826
10	座間市	28,714
11	横浜市	29,578
12	三浦市	30,000
13	横須賀市	30,863
14	大和市	32,315
15	海老名市	33,079
16	川崎市	33,476
17	鎌倉市	33,578
18	厚木市	35,888
19	藤沢市	46,342
19市合計(1ト当たり)		29,871

中間処理経費

順位	市区町村名	1ト当たり (円)
1	横浜市	9,063
2	綾瀬市	10,336
3	平塚市	12,534
4	南足柄市	12,566
5	海老名市	14,456
6	小田原市	16,698
7	座間市	16,759
8	伊勢原市	17,658
9	茅ヶ崎市	17,773
10	川崎市	18,220
11	秦野市	18,534
12	厚木市	19,921
13	相模原市	22,138
14	三浦市	23,659
15	藤沢市	23,699
16	横須賀市	27,444
17	鎌倉市	34,793
18	逗子市	46,757
19	大和市	47,601
19市合計(1ト当たり)		16,619

最終処分(埋立) 経費

順位	市区町村名	1ト当たり (円)
1	相模原市	5,861
2	横浜市	10,257
3	川崎市	10,920
4	厚木市	36,151
5	小田原市	44,209
6	茅ヶ崎市	50,247
7	大和市	58,000
8	秦野市	59,650
9	伊勢原市	64,243
10	南足柄市	91,864
11	平塚市	121,478
12	横須賀市	204,880
13	三浦市 <small>注1)</small>	1,449,293
14	藤沢市 <small>注1)</small>	1,457,160
15	鎌倉市 <small>注2)</small>	—
16	逗子市 <small>注2)</small>	—
17	海老名市 <small>注3)</small>	—
18	座間市 <small>注3)</small>	—
19	綾瀬市 <small>注3)</small>	—
19市合計(1ト当たり)		16,948

1人当たり年間処理経費

順位	市区町村名	1人当たり (円)
1	横浜市	8,053
2	綾瀬市	9,038
3	平塚市	9,926
4	座間市	10,375
5	海老名市	10,733
6	相模原市	11,546
7	伊勢原市	11,581
8	秦野市	11,678
9	川崎市	11,790
10	小田原市	12,180
11	茅ヶ崎市	12,439
12	南足柄市	13,133
13	横須賀市	14,065
14	藤沢市	14,425
15	厚木市	15,283
16	逗子市	17,921
17	三浦市	17,950
18	鎌倉市	19,882
19	大和市	19,974
19市合計(1ト当たり)		10,866

※推計人口数で算出

注1) 三浦市は、埋立量が58tと少なく、最終処分経費が84,059千円あり、藤沢市は、埋立量が100tと少なく、最終処分経費が145,716千円あるため単価が高くなっている。

注2) 鎌倉市と逗子市は不燃ごみを直接埋立てていないため、1トン当たりの経費を算出していない。

注3) 海老名市、座間市、綾瀬市は、3市で「高座清掃施設組合」を構成し、各市で組合分担金を支出しているが、組合金分担金は中間処理費に分類している。